

平成 14 年度第 1 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 14 年 5 月 16 日 19:00～20:30

市民活動サポートセンターフレキシブルスペース

出席委員 16 名……新井、水谷、安倍、飯島、飯塚、今城、岩崎、江口、遠藤、岡本、庄司、
根本、松尾、道畑、百瀬、横山
事務局 4 名……YMCA よこすかコミュニティサポート 田口、高村、佐久間
市民生活課 山田

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

- ・公益活動団体について承認した。
- ・解散していると思われる実行委員会、公益団体となっているにもかかわらずデータベース番号が抜けている団体については、再確認し、リストを修正する。
- ・データベース削除、変更等は十分確認をした上で受領、処理することを徹底する。

3 その他

- ・次回運営委員会は、7 月 11 日(木)。

[意見概要]

夏の市民活動体験フェアについて

(新井委員)

- ・レポーター講習会 2 回は別々か、2 回連続のコースか。
- ・自分が所属する団体の行事にレポーターとして参加することもあるか。

(事務局)

- ・別である。レポーター希望者はどちらか 1 回講習会に参加してから、各団体の行事を取材する。
- ・原則的には所属団体以外の行事に参加してもらおう。

(松尾委員)

- ・レポーターの取材先は指定するのか。希望制にするといくつかの行事に集中する可能性がある。

(事務局)

- ・取材先は講習会終了後のオリエンテーションで説明するが、集中することのないよう調整を図りたい。

(岩崎委員)

- ・フェア評価会とあるが、評価会としたのは何か意図があるのか。

(事務局)

- ・以前、反省会として行ったが、運営委員から、反省会というと、反省点ばかり出す姿勢になりがちなので、前向きの言葉にした方が良いとの意見があり、評価会という言葉を使った。

(岩崎委員)

- ・こういった行事は“評価”が妥当なのかどうか。報告会で良いように思う。

(百瀬委員)

- ・このような行事は昨年も夏と冬の時期に実施した。もう少し気候の良い春や秋に開催してはどうかとの意見があったと思うが、今後どうするか。

(事務局)

- ・2月のフェア終了後の実行委員会でも、春や秋にとの意見が出されたが、春や秋は各団体の事業も多く、最終的にはそのまま夏と冬で継続してみようということになった。前回の運営委員会です承いただいた通り、今後は年間を通じて、一般参加者やボランティア受け入れができる団体を情報誌「のたろん」で紹介していく。

(根本委員)

- ・チラシのスケジュールに報告書提出とあるが、ボランティア等で参加した人の感想、意見も団体として受領、とりまとめして提出するようになるか。
- ・自分が所属する団体は参加団体説明会の6月29日に予定があり誰も出られないと思うがそのような場合どうしたら良いか。

(事務局)

- ・団体としての報告書を想定している。ボランティア体験参加者の感想はサポートセンターに提出してもらおう考えである。
- ・参加団体説明会は、どうしても都合がつかなければ欠席でも仕方ないが、基本的には必ず出席いただくこととしている。

(新井委員)

- ・事務的に可能であれば、説明会を2回にしても良いのではないか。

(松尾委員)

- ・体験者として参加した人へのフォローはどうするか。派遣先の団体への入会促進は団体が自ら行うのか。

(水谷委員)

- ・勧誘は受け入れ団体が工夫すべきことである。

(根本委員)

- ・レポーター募集でフィルムはサポートセンターで用意とあるが、何本か。現像はどうか。

(事務局)

- ・フィルムはレポーター1人に1本。撮影したフィルムを提出してもらいサポートセンターで現像・プリントする。

武山市民プラザでのサポートセンターPRについて

(遠藤委員)

- ・武山市民プラザでの展示にスタッフはつくか。
- ・5月に実施した湘南国際村フェスティバルでの展示の反応はどうだったか。

(事務局)

- ・期間中、時間の取れる時に様子を見に行くことは考えているが、今回は展示のみの予定である。

- ・湘南国際村での展示は県外からの来場者も多く、PR になった。また、展示を通して葉山など、市外の団体との交流にもなった。

(安倍委員)

- ・西地域ではサポートセンターのことを知らない人が多い。忙しいとは思いますが、単に展示するだけでなく、説明会などを行うと効果があるのではないかと。

(事務局)

- ・武山市民プラザと調整し、説明会等が可能か、必要性も含めて検討したい。
- ・サポートセンターの利用者が増え、スタッフ体制がきつい時もあり、展示に付くのは難しい部分がある。この日なら都合がつくという運営委員の方がいれば、説明員として、ぜひご協力いただきたい。

(百瀬委員)

- ・西地域で関心が低いとの意見があるが、展示もその周知もこれからなので、知らないのは当然である。

市民公益活動団体について

(新井委員)

- ・No.199「父と暮らせば」を観る会実行委員会は活動が終了しているのではないかと。

(事務局)

- ・実行委員会の解散が確認できたところは資料 5 の p10 のとおり削除している。同団体については連絡がとれていない段階と思うが確認したい。

(松尾委員)

- ・よこすか女性の連絡会が No.406 よこすかまちづくり市民の会に名称変更となっているが、別団体である。よこすか女性の連絡会は 5 月末で解散の予定である。このような手違いは今後も起こり得ることなので、安易に受けることなく、申請者や変更内容等を書面で確認するなど注意が必要である。

(事務局)

- ・登録内容の変更は可能な限り書面で行うようにしている。団体の削除は、代表者と電話や電子メール、ファクス等で確認している。今回のケースは早急に事実確認し、スタッフの認識、対応を統一したい。

(新井委員)

- ・この利用団体リスト（資料 5）は書架に置いてあるか。
- ・これ以上の情報が知りたい場合はどうなるか。

(事務局)

- ・運営委員会資料として置いてある。データベース登録団体については、情報コーナーのパソコン上で検索すれば連絡先等詳しい内容を確認できるようになっている。どこまで公開するかは団体の意志による。

(安倍委員)

- ・利用団体リストに載せたきり、そのままになっている団体もあるのではないかと。リストの更新も必要である。

(水谷委員)

- ・市外の団体がいくつか入っているようだが、どういうことか。例えばワーカーズコレクティブたすけあいハートは逗子の団体である。

(事務局)

- ・これは、公益性の判断が適正かどうかを運営委員会で確認していただくための利用団体リストである。変更、削除等確認できた段階で修正している。データベース登録の見直しを今年の検討事項としているので、並行して利用団体リストも更新する。
- ・ポスター掲示のみの団体や書架に会報を置いているだけの団体も含まれており、市外の団体もある。逗子等近隣市町村の団体は、市内の団体との連携の可能性もあり、サポートセンターとしては情報を持っておいた方がいいと考えている。

(岩崎委員)

- ・公益団体となっているのにデータベース番号がない団体があるがどういうことか。

(事務局)

- ・公益団体となっている団体はデータベース登録が前提なので、記入間違いと思われるが、確認したい。

その他

(新井委員)

- ・前回の議事録に市民活動支援施設ネットワーク会議立ち上げのための打合せを行うとあるが、内容を知らせてほしい。

(事務局)

- ・サポートセンター、社協ボランティアセンター、生涯学習センター、国際交流協会の4者で今年度の予定等、情報交換した。学校週5日制に伴い、子どもたちが土・日に参加できるような行事の実施などの要請をそれぞれの施設が受けており、今後も、年3回程度、情報交換をして、必要に応じて連携、協力していこうということになった。青少年会館等、参加施設の拡大も含め、検討していく。次回は7月開催の予定。

(遠藤委員)

- ・よこすか栄養士薬膳料理研究グループとはどのような団体か。

(事務局)

- ・栄養士のグループで薬膳料理の作り方を研究し、講習会等を催している。

(松尾委員)

- ・市民協働補助制度はどの程度の問い合わせがあるか。総予算はいくらで、対象団体数はどれぐらいか。

(市民生活課)

- ・問い合わせは概ね30団体、総予算は300万円である。審査会で選考された団体が対象なので、団体数の決めはない。

(水谷委員)

- ・該当なしということもあり得る。

(新井委員)

- ・サポートセンターで10枚、20枚単位で用紙を販売していると思うが、100枚、200枚単位等、もう少しまとめた販売もしてほしい。

(事務局)

- ・ 1 締め (500 枚) 程度までならお譲りしている。事務室が狭く、大量の保管はできないため、箱単位等では受けていない。
- ・ 紙を販売することがサポートセンターの役割ではないので、基本的には各団体で用意していただきたい。

(江口委員)

- ・ ロッカー、レターケース利用団体募集で申し込み多数の場合は抽選となっていた。ロッカーを申し込んだ団体には決定通知が来たがレターケースのみの団体には連絡がなかったので、改善の必要がある。
- ・ サポートセンターの電話対応で、「市民活動サポートセンター〇〇です」と名前を名乗るのはいいが、早口で聞き取りづらい時がある。ゆっくり対応してほしい。
- ・ 最近、夜間の利用者も多くなっており、うれしく思う。

(遠藤委員)

- ・ 日常業務の中で困ったことはないか。

(事務局)

- ・ このところ利用者が増え、スタッフ体制の見直しを検討している。利用者が多くなったために、機械の故障が増えたり、他の利用団体の声についてクレームがでることもあった。静かな場所で打合せをしたいという団体には別の会場を取っていただくようお願いしている。

(飯島委員)

- ・ 印刷機もリースにしてはどうか。横浜はオープン間もないこともあるが、リースで故障も少ないようである。

(事務局)

- ・ リースにしても、故障にかかる修繕料は別である。保守契約を結ぶことも可能だが、リースより買い取り、保守契約より修繕の方が安いので、市役所の場合、印刷機はほとんど買い取り、修繕の対応になっている。
- ・ 印刷機 2 台もかなり限界に近くなっているので、平成 15 年度予算要求のときには、コストを比較、研究したい。

(岡本委員)

- ・ 前回の議事録に相談員制度をスタートしたいとあるが、案はあるか。どのような相談を受けるか、どのレベルに対応するのか検討が必要である。

(新井委員)

- ・ 前回、NPO 法の 12 分野ごとに相談できる体制をとという話があった。

(飯島委員)

- ・ 今はどのような相談があるか。

(事務局)

- ・ 活動をはじめたいがどのような活動があるかとか、団体を立ち上げたいがどうしたらよいか等の相談がある。NPO 法人格取得についての初歩的な相談として、法人格取得のメリット・デメリット、申請に必要な書類等の相談がある。

(岩崎委員)

- ・ 委託内容に相談業務とあるが、これをこの制度で対応しようということか。

(今城委員)

- ・より専門的な部分に対応するということである。決まった時間に分野ごとの相談員がいることがわかれば、相談したい人は来るだろう。

(飯島委員)

- ・他の支援センターでも相談業務を行っているが、開店休業のケースも多く、どのぐらいのニーズがあるか、分析が必要である。

(新井委員)

- ・先日、館内に酔っ払いが 1~2 時間いて、スタッフも対応に苦慮していた。初めてのことでないそうで、大変さを実感した。そのような場面に出会ったら、スタッフに任せきりにせず、運営委員としても協力をしてほしい。